

平成 22 年度 羽村市市政世論調査

概要版

羽村市市政世論調査は、羽村市の今後のまちづくりの指針となる第五次羽村市長期総合計画の策定に先立ち、市民の意見・要望、市政への関心、市政および事業の評価などの市民意識を統計的手法によつて的確に把握することを目的として実施しました。

調査方法と回収状況

- (1) 調査の地域 : 羽村市全域
- (2) 調査の対象者 : 羽村市在住の満18歳以上の男女個人
- (3) 標本の抽出 : 平成22年5月現在の住民基本台帳から層化二段無作為抽出
- (4) 標本数 : 1,000人
- (5) 調査方法 : 郵送配布－郵送回収（礼状兼督促状1回）
- (6) 調査期間 : 平成22年5月24日（月）～6月7日（月）
- (7) 有効回収数（率） : 541票（54.1%）

調査項目

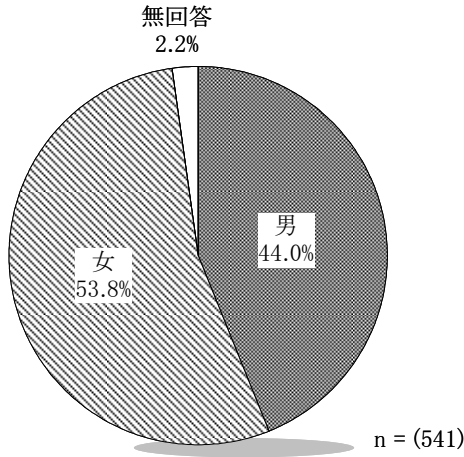
- (1) 定住性と住みよさ
- (2) 市の施策に対する満足度・重要度
- (3) 羽村市の魅力・羽村らしさ
- (4) 市政への関心度
- (5) 地域社会
- (6) 環境
- (7) 高齢者福祉
- (8) 障害者福祉
- (9) 防災・防犯対策
- (10) 都市基盤
- (11) 市営霊園
- (12) 水道事業
- (13) 男女共同参画
- (14) 男女間における暴力
- (15) 行政改革

概要版を見る上での注意事項

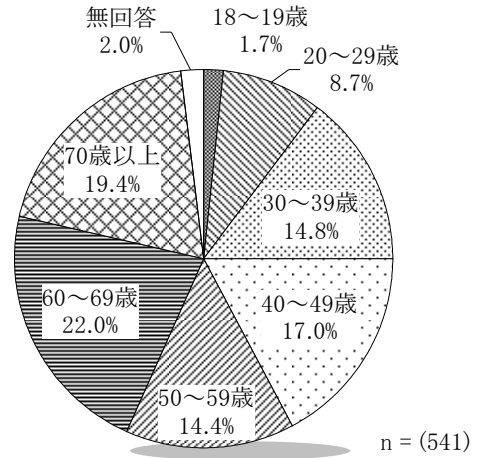
- (1) 表、グラフ中の「n」は、各設問に対する回答者数を示しています。
- (2) 百分率（%）の計算は、「n」を分母とし、小数第2位を四捨五入して表示しています。
したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、百分率を足し合わせても100%にならない場合があります。また、複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、百分率の合計が100%を超える場合があります。
- (3) 紙面の都合上、図表や選択肢の表示には一部省略しているものがあります。

調査回答者の属性

◆性別

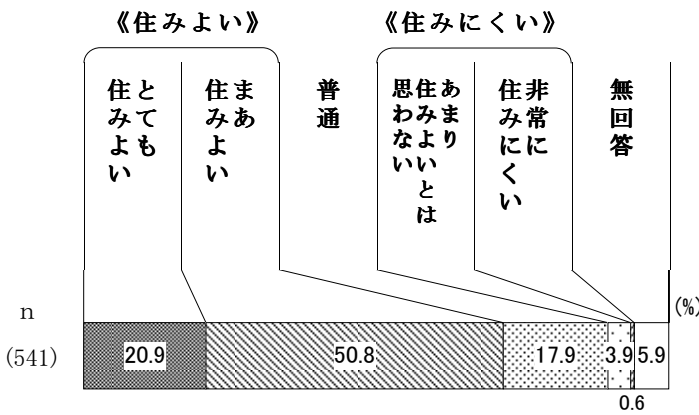


◆年代



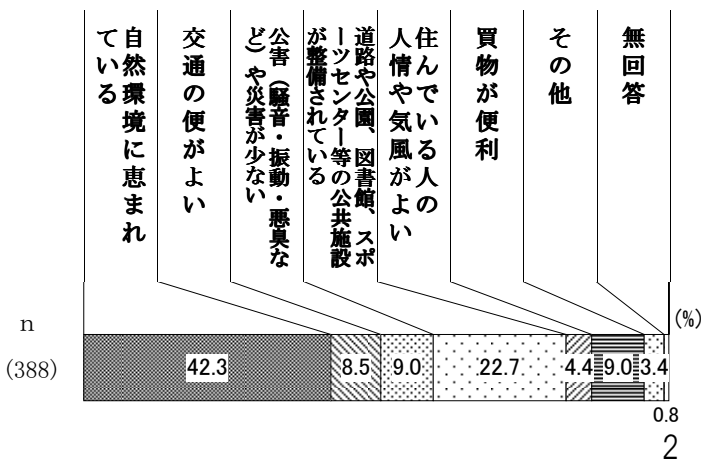
1 定住性と住みよさ

◆住みよさ



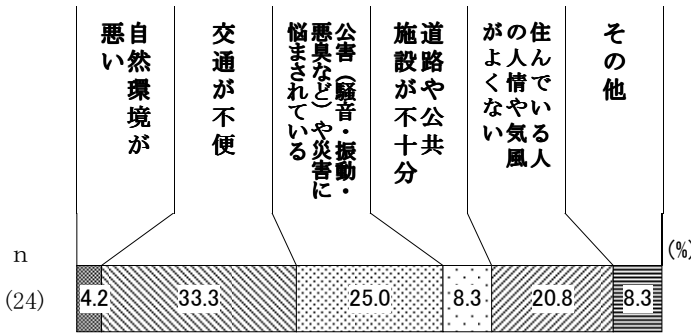
《住みよい》(「とても住みよい」+「まあ住みよい」)は71.7%となっており、《住みにくい》(「非常に住みにくい」+「あまり住みよいとは思わない」)(4.5%)を大きく上回っています。

◆住みよい理由 (《住みよい》人のみ)



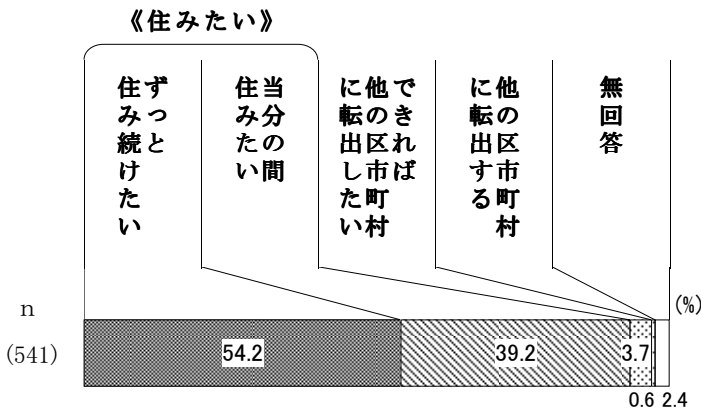
「自然環境に恵まれている」が42.3%で最も多く、「道路や公園、図書館、スポーツセンター等の公共施設が整備されている」が22.7%となっています。

◆住みにくい理由 《住みにくい》人のみ



「交通が不便」が 33.3%で最も多く、「公害（騒音・振動・悪臭など）や災害に悩まされている」（25.0%）、「住んでいる人の人情や気風がよくない」（20.8%）が2割台で続いています。

◆定住意向



《住みたい》（「ずっと住み続けたい」＋「当分の間住みたい」）は 93.4%と9割を超えて多くなっています。

2 市の施策に対する満足度・重要度

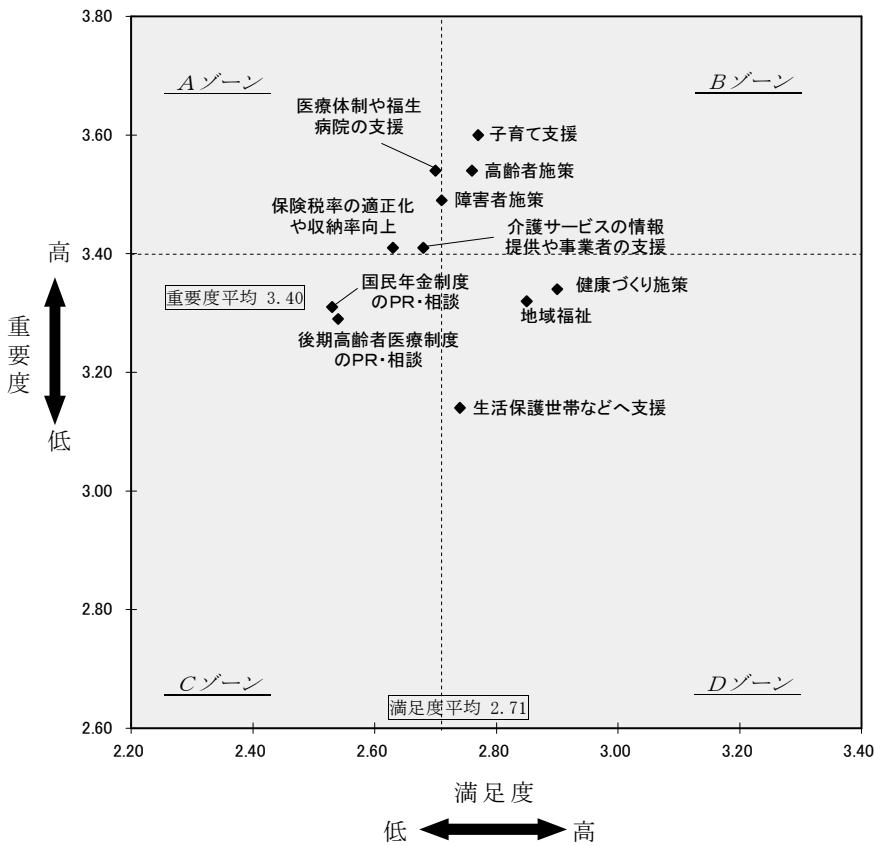
市で取り組んでいる様々な施策に対する満足度・重要度を評価してもらい、右のように得点化しました。さらに、市の第四次長期総合計画で定めた5つの基本目標ごとに、満足度を横軸、重要度を縦軸にとり、平均値を境として4つの領域に分類したものが次ページからの図です。

平均評価点算出方法	
・「満足／重要である」の回答数	× 4点
・「どちらかといえば満足／どちらかといえば重要」の回答数	× 3点
・「どちらかといえば不満／どちらかといえば重要でない」の回答数	× 2点
・「不満である／重要でない」の回答数	× 1点
評価点 =	$\frac{\text{上記の合計}}{\text{回答者数（無回答を除く）}}$

《重要度》	《Aゾーン》 重要度：平均値より高い 満足度：平均値より低い	《Bゾーン》 重要度：平均値より高い 満足度：平均値より高い
	《Cゾーン》 重要度：平均値より低い 満足度：平均値より低い	《Dゾーン》 重要度：平均値より低い 満足度：平均値より高い

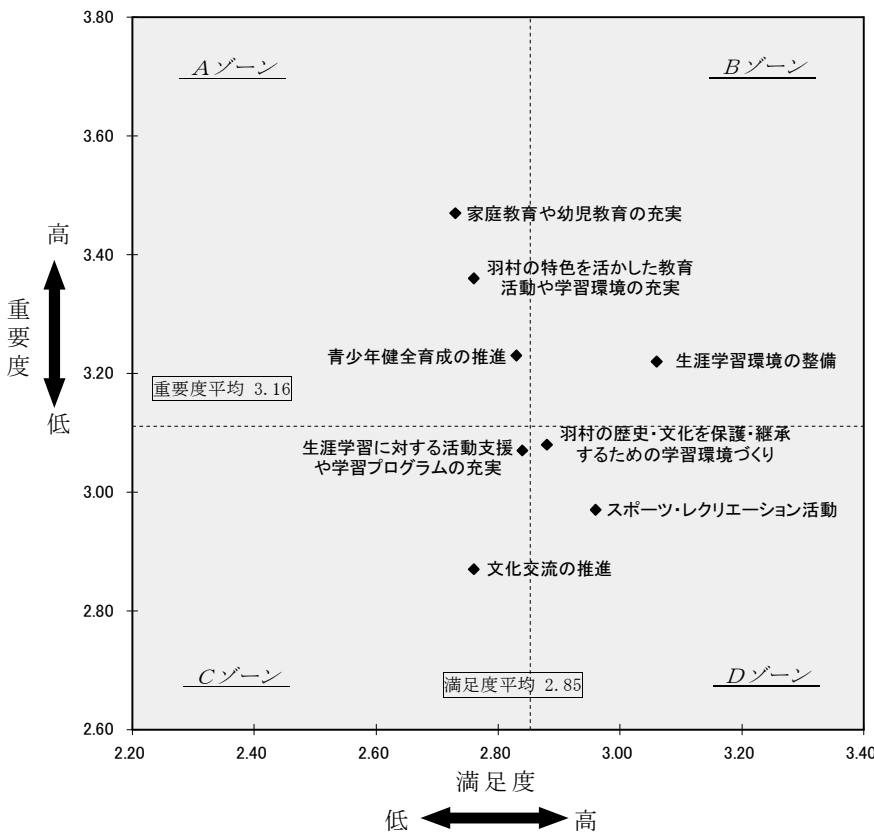
《満足度》

支えあい いきいきと暮らせるまち



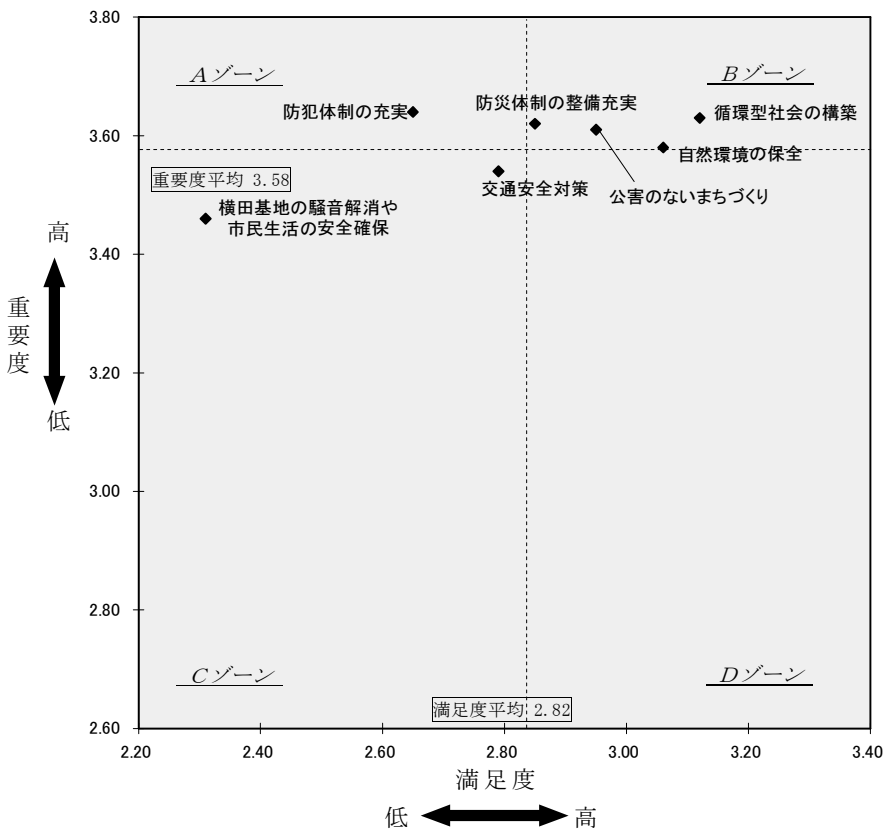
基本目標「支えあい いきいきと暮らせるまち」では、“子育て支援”、“高齢者施策”、“医療体制や福生病院の支援”の重要度の高さが特徴的であり、さらなる充実が求められています。

学びあい豊かな心を育むまち



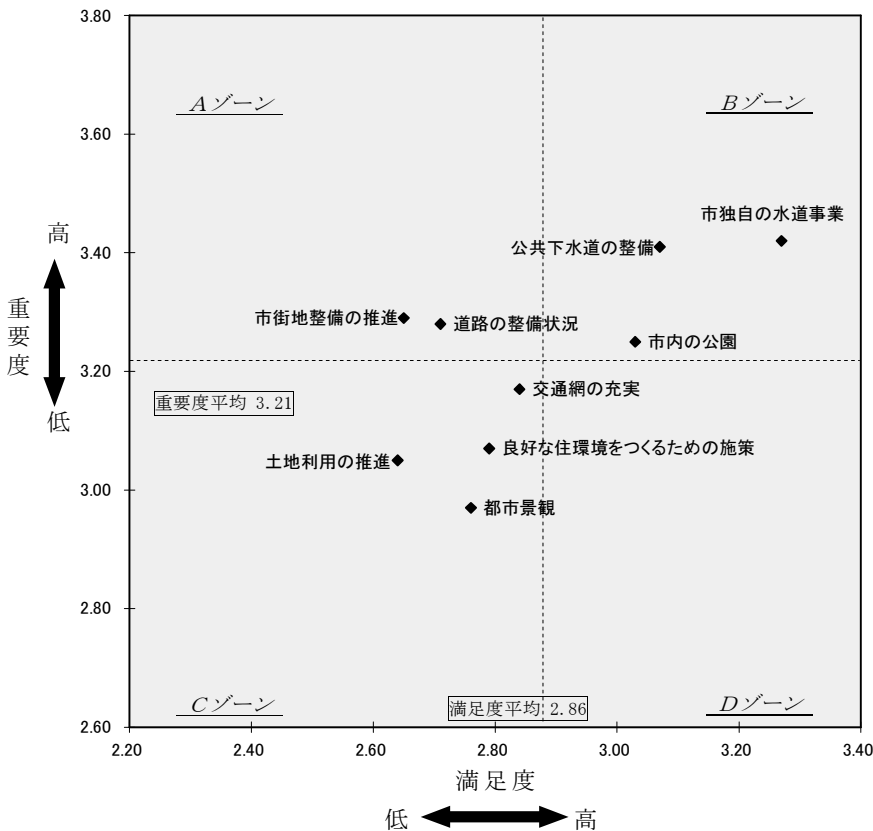
基本目標「学びあい豊かな心を育むまち」では、“家庭教育や幼児教育の充実”、“羽村の特色を活かした教育活動や学習環境の充実”の重要度が高くなっています。満足度は平均的ですが、優先的な取り組みが期待されているといえます。

環境にやさしい安心して暮らせるまち



基本目標「環境にやさしい安心して暮らせるまち」では、どの項目も重要度の高さが際立っています。中でも、“防犯体制の充実”と“横田基地の騒音解消や市民生活の安全確保”では満足度が特に低く、優先課題となっています。

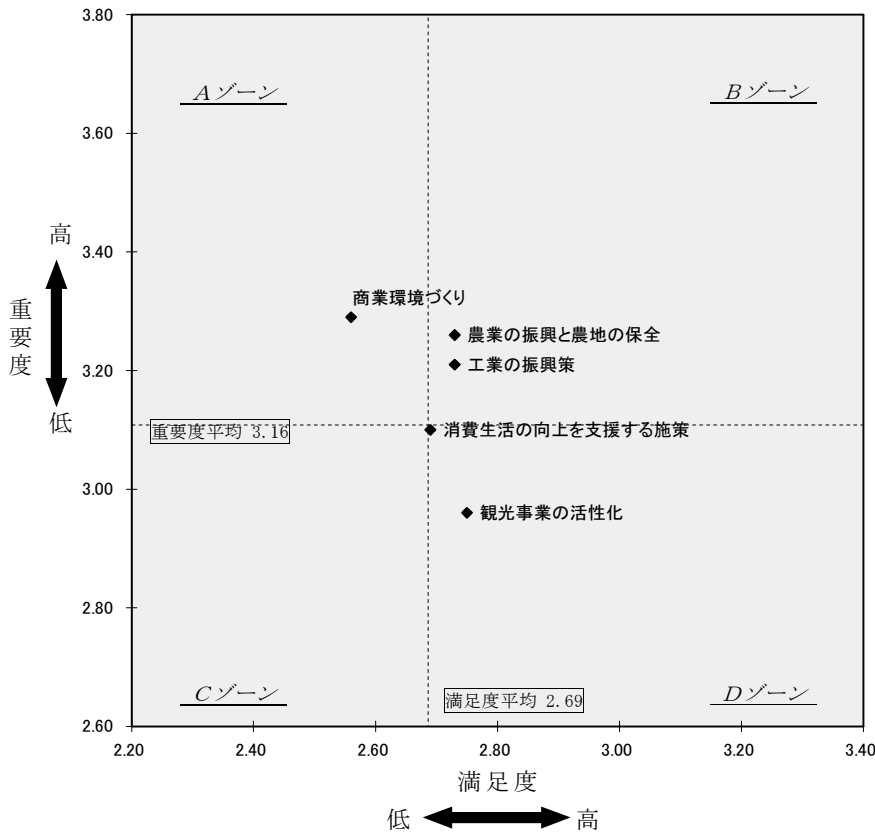
美しく快適な住みよいまち



基本目標「美しく快適な住みよいまち」では、“市独自の水道事業”の満足度、重要度がともに高く、今後も継続して取り組むことが期待されています。

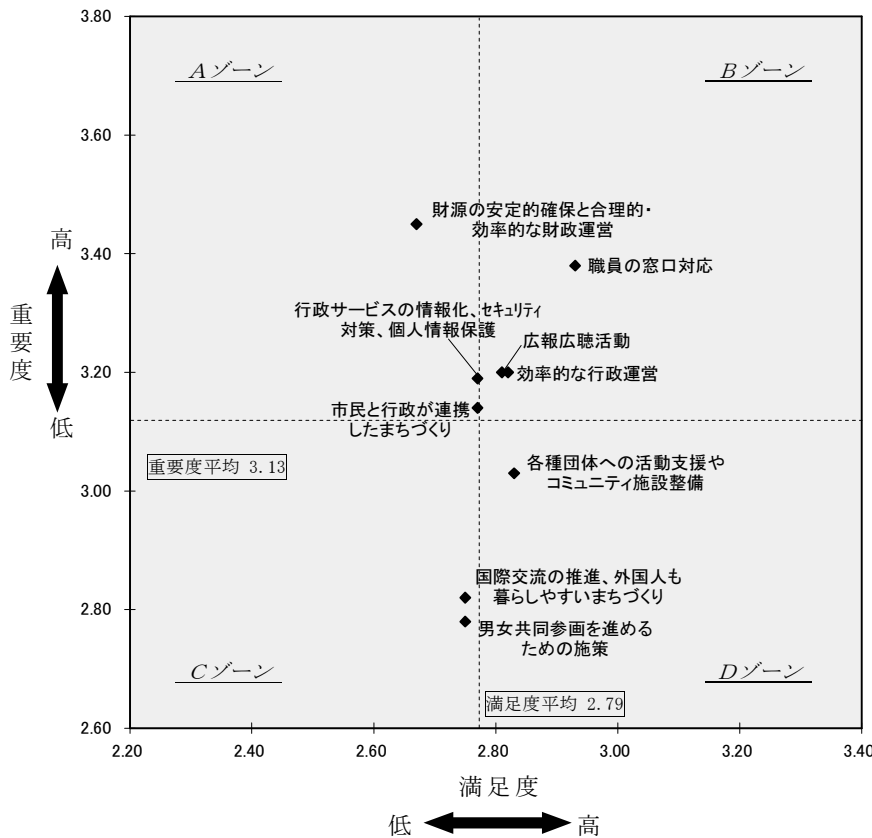
全体的に満足度が高い中で、“市街地整備の推進”と“道路の整備状況”については、更なる取り組みが求められています。

活力に満ちた にぎわいのあるまち



基本目標「活力に満ちた にぎわいのあるまち」では、平均的な評価が多く際立ったものはみられません。その中では、“商業環境づくり”が優先課題に位置づけられます。

基本構想を推進するために

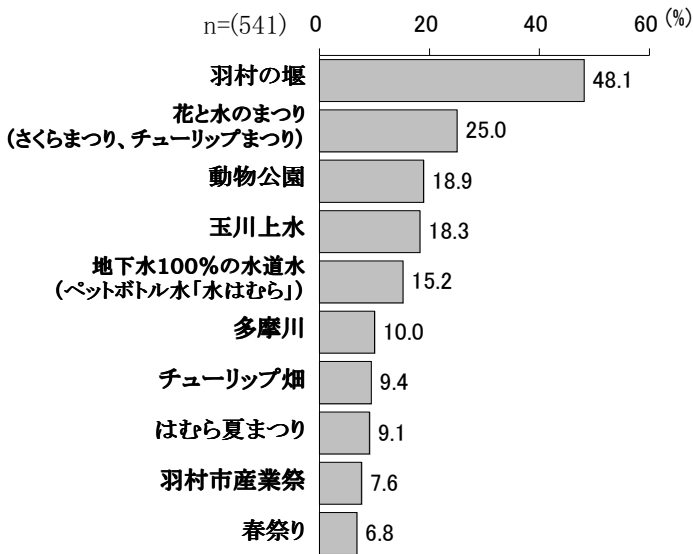


基本目標「基本構想を推進するために」では、“財源の安定的確保と合理的・効率的な財政運営”における更なる取り組みが求められています。

また、“男女共同参画を進めるための施策”と“国際交流の推進、外国人も暮らしやすいまちづくり”の満足度は平均的ですが、重要度の低さが目立っています。

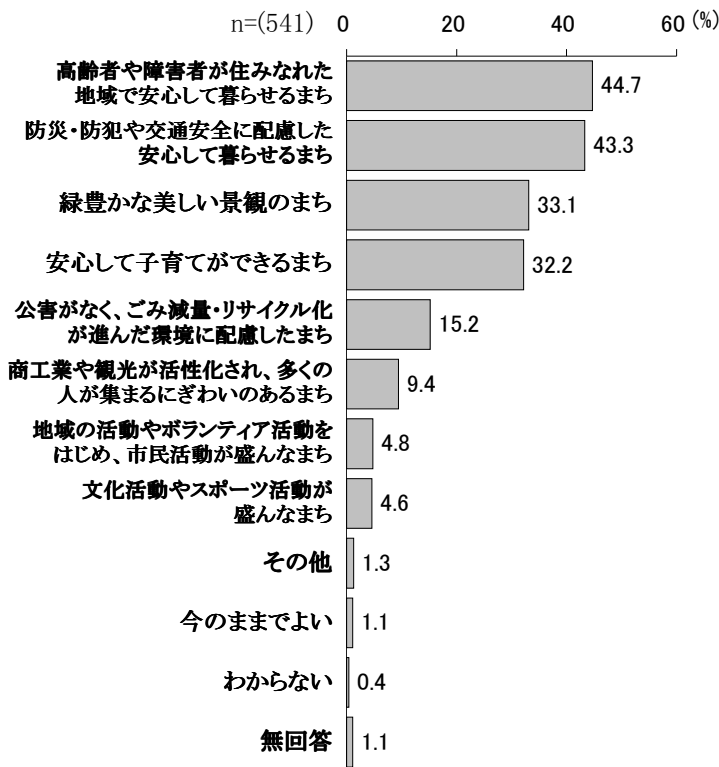
3 羽村市の魅力・羽村らしさ

◆魅力や羽村らしさを感じる市の施設や行事－上位10項目（複数回答）



「羽村の堰」が48.1%で特に多く、以下、「花と水のまつり（さくらまつり、チューリップまつり）」（25.0%）、「動物公園」（18.9%）、「玉川上水」（18.3%）、「地下水100%の水道水（ペットボトル水『水はむら』）」（15.2%）と続いています。

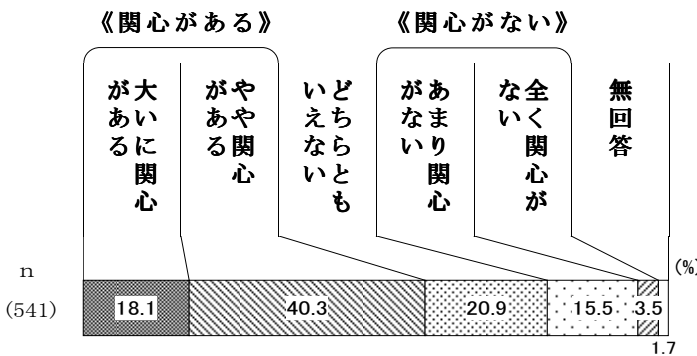
◆希望する将来の市のまちづくり（複数回答）



「高齢者や障害者が住みなれた地域で安心して暮らせるまち」（44.7%）、「防災・防犯や交通安全に配慮した安心して暮らせるまち」（43.3%）の2項目が4割台で多く、これに「緑豊かな美しい景観のまち」（33.1%）、「安心して子育てができるまち」（32.2%）が3割台で続いています。

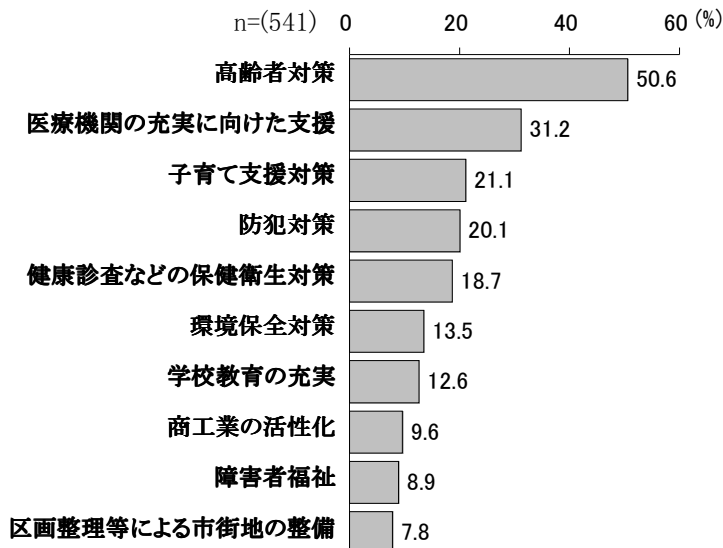
4 市政への関心度

◆市政への関心度



《関心がある》(「大いに関心がある」+「やや関心がある」)は58.4%となっています。一方、《関心がない》(「全く関心がない」+「あまり関心がない」)は19.0%となっています。

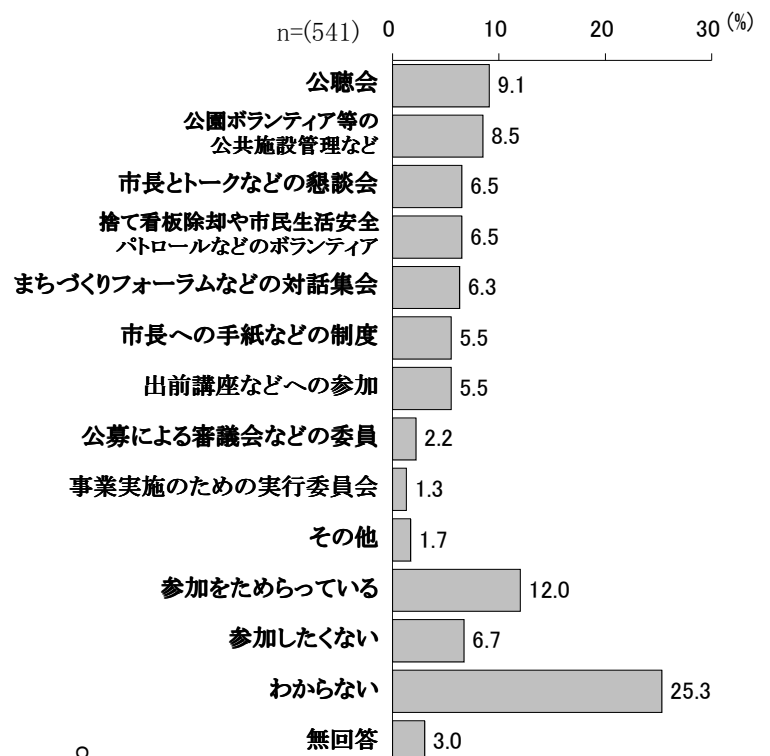
◆力を入れてほしい、新たに取り組んでもらいたい施策－上位10項目（複数回答）



「高齢者対策」が50.6%で最も多く、以下、「医療機関の充実に向けた施策」(31.2%)、「子育て支援対策」(21.1%)、「防犯対策」(20.1%)と続いています。

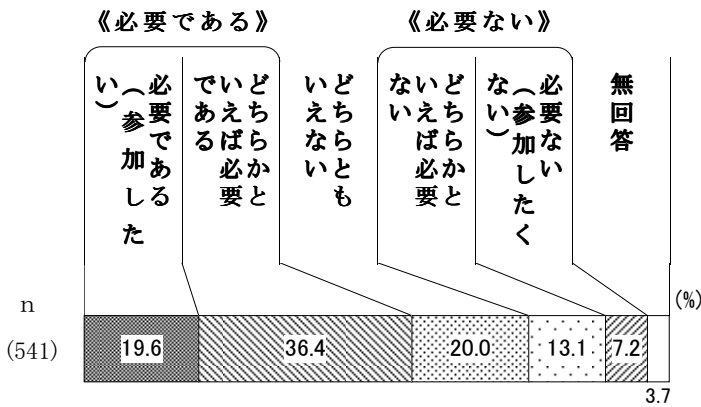
◆市政への参加・協働意向

「公聴会」が9.1%、「公園ボランティア等の公共施設管理など」が8.5%となっており、参加意向全体としては53.0%となっています。一方、「参加をためらっている」が12.0%、また、「わからない」も25.3%と多くなっています。



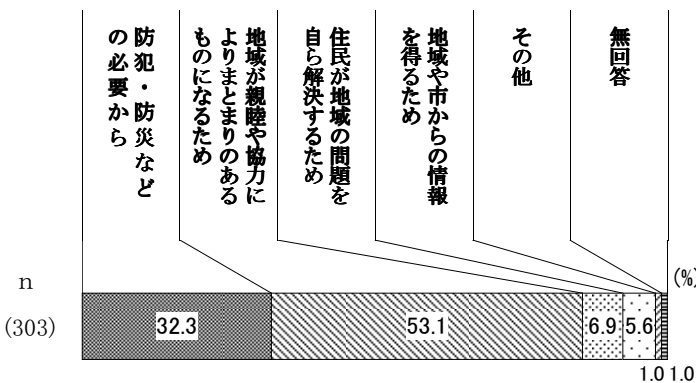
5 地域社会

◆町内会・自治会の必要性、活動への参加についての考え



《必要である》(「必要である(参加したい)」+「どちらかといえば必要である」)は56.0%となっています。一方、《必要ない》(「必要ない(参加したくない)」+「どちらかといえば必要ない」)は20.3%となっています。

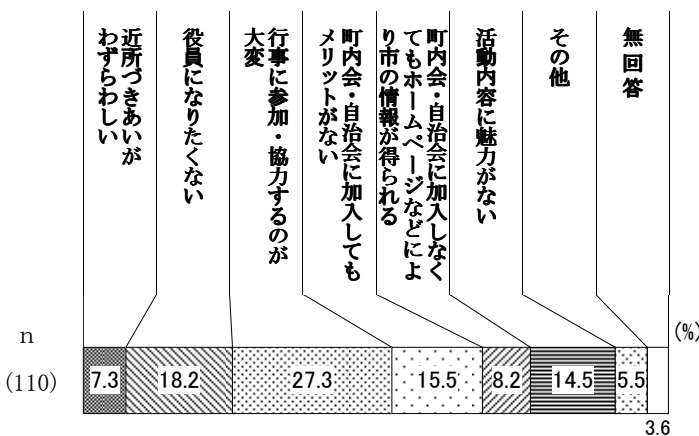
◆町内会や自治会があった方がよい理由(《必要である》のみ)



「地域が親睦や協力によりまとまりのあるものになるため」が53.1%で最も多く、「防犯・防災などの必要から」が32.3%とこれに次いでいる。

なお、町内会や自治会の加入を促進するための方法を聞いたところ、「町内会・自治会の行事に参加してもらうなど積極的に声かけを行う」が34.8%で最も多くあげられています。

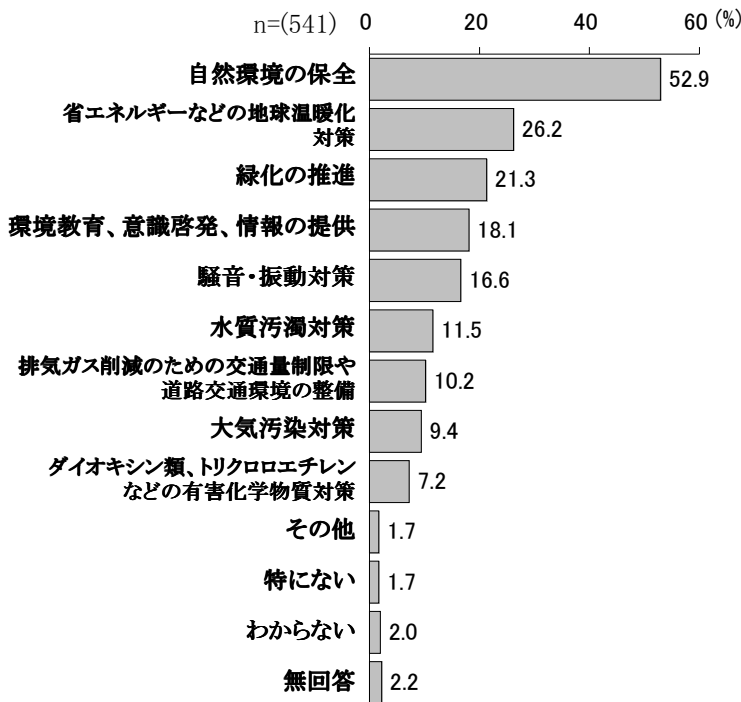
◆町内会や自治会が必要でない理由(《必要ない》のみ)



「行事に参加・協力するのが大変」が27.3%で最も多く、「役員になりたくない」(18.2%)、「町内会・自治会に加入してもメリットがない」(15.5%)、「活動内容に魅力がない」(14.5%)が1割台となっています。

6 環境

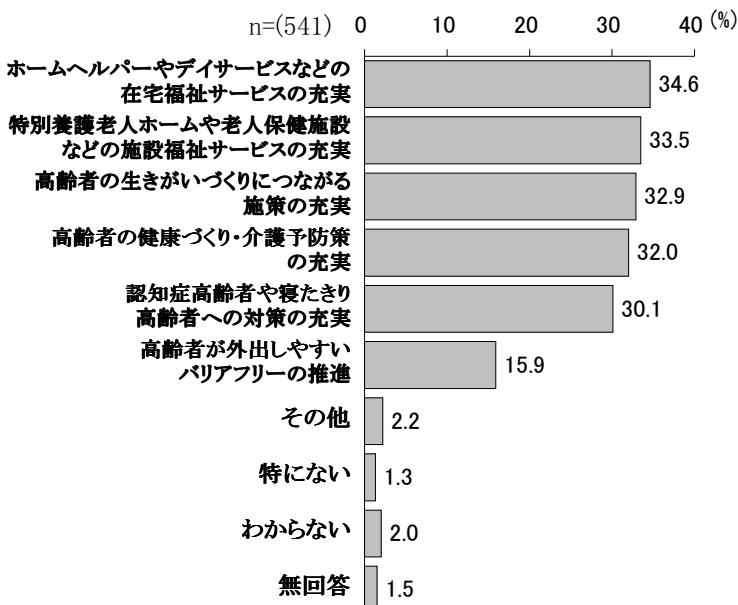
◆環境への取り組みとして重点をおくべきもの（複数回答）



「自然環境の保全」が 52.9% で特に多く、以下、「省エネルギーなどの地球温暖化対策」(26.2%) と「緑化の推進」(21.3%) が 2 割台、「環境教育、意識啓発、情報の提供」(18.1%)、「騒音・振動対策」(16.6%) などが 1 割台で続いています。

7 高齢者福祉

◆市に力をいれてほしい高齢者福祉施策（複数回答）

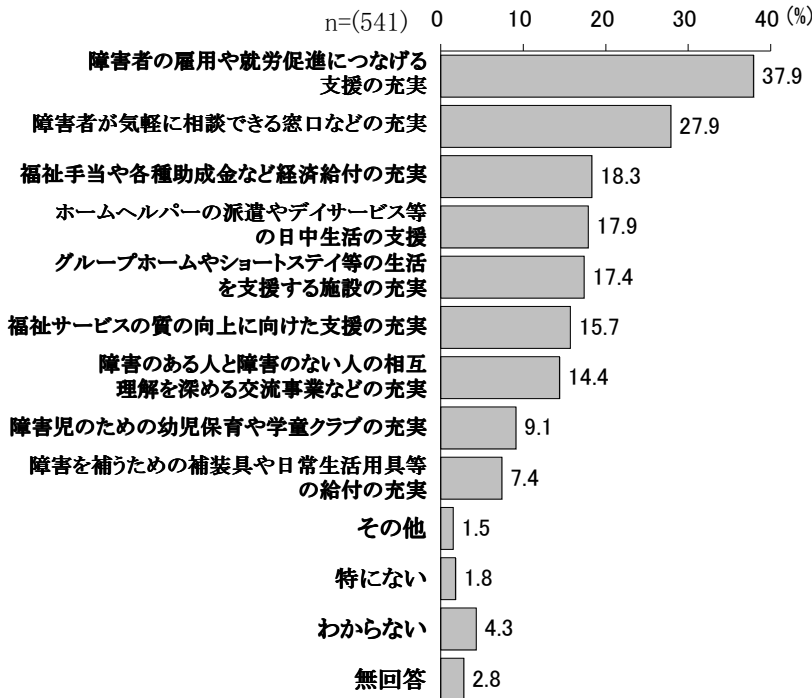


「ホームヘルパーやデイサービスなどの在宅福祉サービスの充実」が 34.6% で最も多いが、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの施設福祉サービスの充実」(33.5%)、「高齢者の生きがいづくりにつながる施策の充実」(32.9%)、「高齢者の健康づくり・介護予防策の充実」(32.0%)、「認知症高齢者や寝たきり高齢者への対策の充実」(30.1%) が 3 割台と僅差で続いています。

なお、老後の暮らし方では、「日常生活の中で、家族や友人などとの交流を深めながら暮らしたい」(31.6%) と「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」(28.3%) が多くなっています。

8 障害者福祉

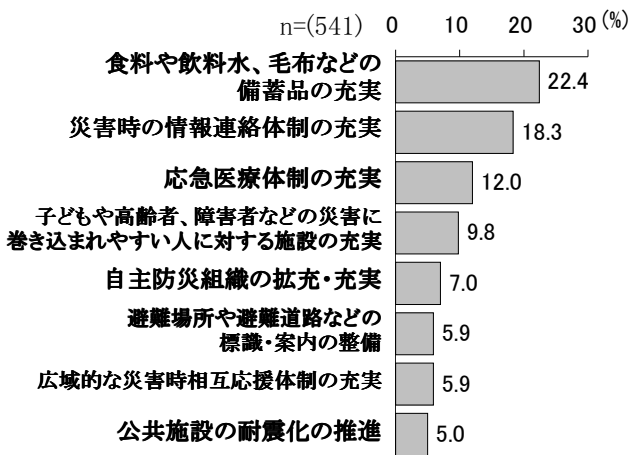
◆必要な障害者福祉施策（複数回答）



「障害者の雇用や就労促進につなげる支援の充実」が 37.9% で最も多く、以下、「障害者が気軽に相談できる窓口などの充実」(27.9%)、「福祉手当や各種助成金など経済給付の充実」(18.3%)、「ホームヘルパーの派遣やデイサービス等の日中生活の支援」(17.9%)、「グループホームやショートステイ等の生活を支援する施設の充実」(17.4%)などが続いています。

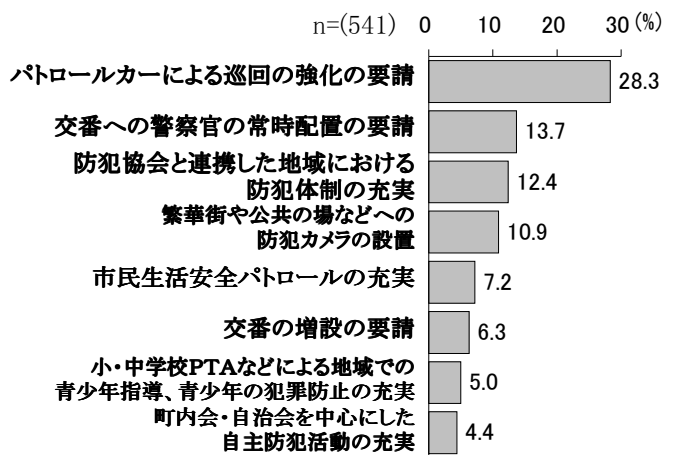
9 防災・防犯対策

◆防災対策で重点をおいて進めるべきもの－上位8項目



「食料や飲料水、毛布などの備蓄品の充実」が 22.4% で最も多くあげられています。

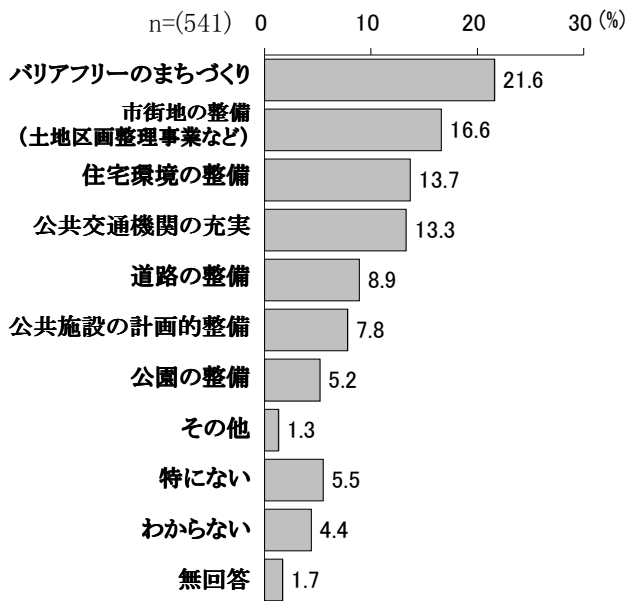
◆防犯対策で重点をおいて進めるべきもの－上位8項目



「パトロールカーによる巡回の強化の要請」が 28.3% で最も多くあげられています。

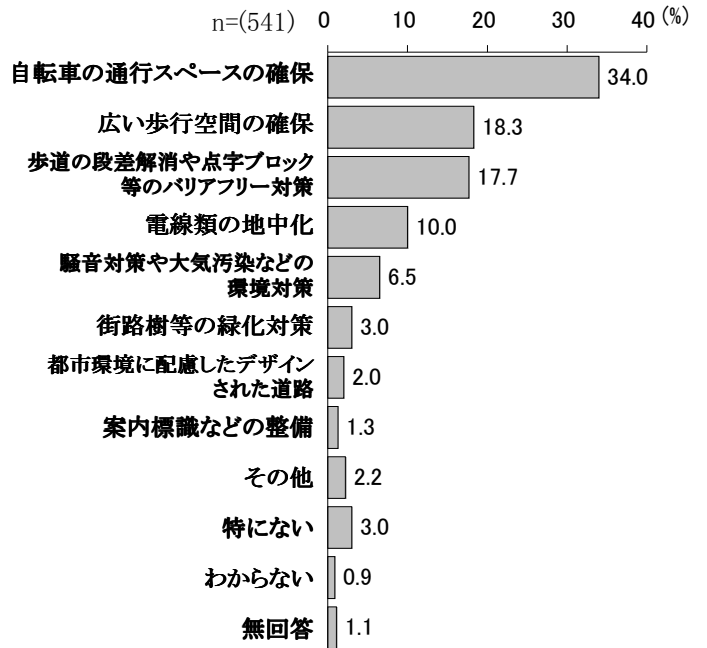
10 都市基盤

◆市の都市基盤整備に望むこと



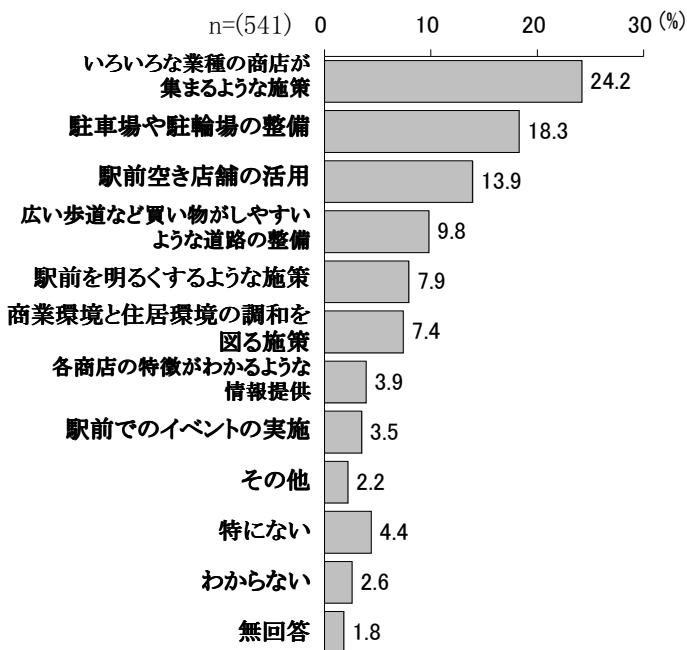
「バリアフリーのまちづくり」が21.6%で最も多く、これに「市街地の整備（土地区画整理事業など）」、「住宅環境の整備」、「公共交通機関の充実」が1割台が続いています。

◆市の道路整備で優先すべきもの



「自転車の通行スペースの確保」が34.0%で最も多く、これに「広い歩行空間の確保」、「歩道の段差解消や点字ブロック等のバリアフリー対策」、「電線類の地中化」が1割台が続いています。

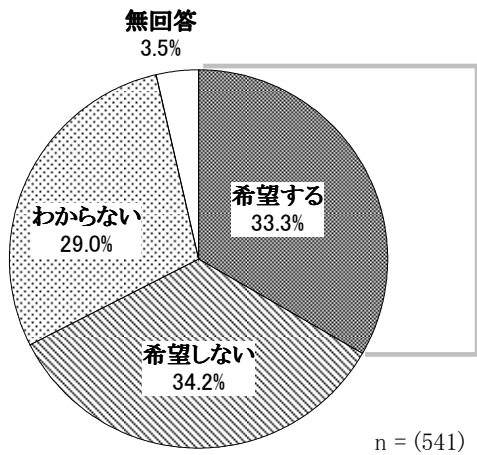
◆市の活性化のために必要な施策



「いろいろな業種の商店が集まるような施策」が24.2%で最も多く、これに「駐車場や駐輪場の整備」、「駅前空き店舗の活用」が1割台が続いています。

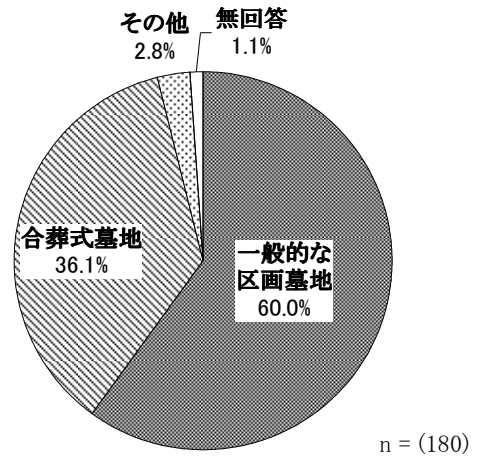
11 市営霊園

◆市営霊園の使用希望意向



市営霊園を拡張した際の使用希望は、「希望する」が 33.3%、「希望しない」が 34.2%となっています。

◆希望する墓地形態（「希望する」人のみ）

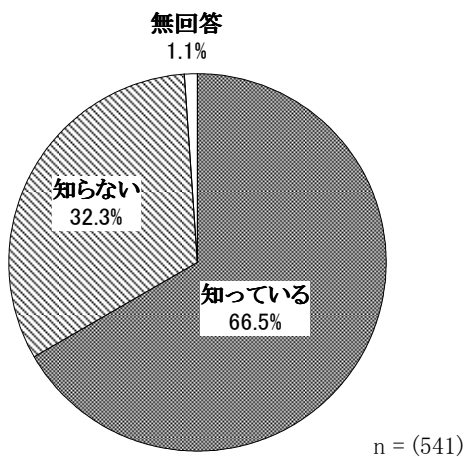


希望する墓地形態は、「一般的な区画墓地」が 60.0%、「合葬式墓地^{*}」が 36.1%となっています。

^{*}お墓の継承者（跡を継ぐ人）がいない方なども利用できるよう、一つの大きなお墓に多数のお骨を一緒に納め、市が永年管理する墓地

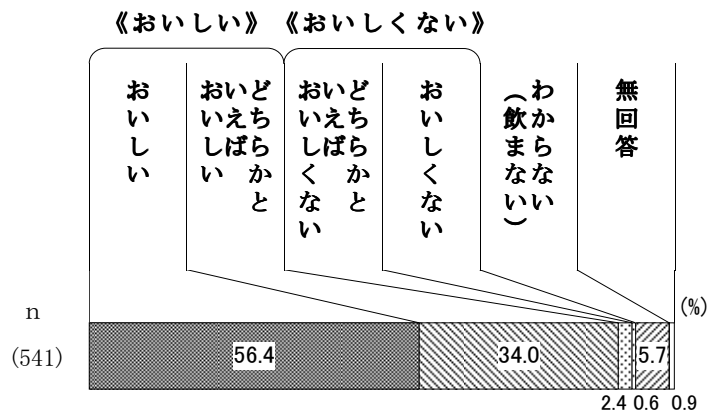
12 水道事業

◆市水道事業の水源の周知度



「知っている」が 66.5%、「知らない」が 32.3%となっています。

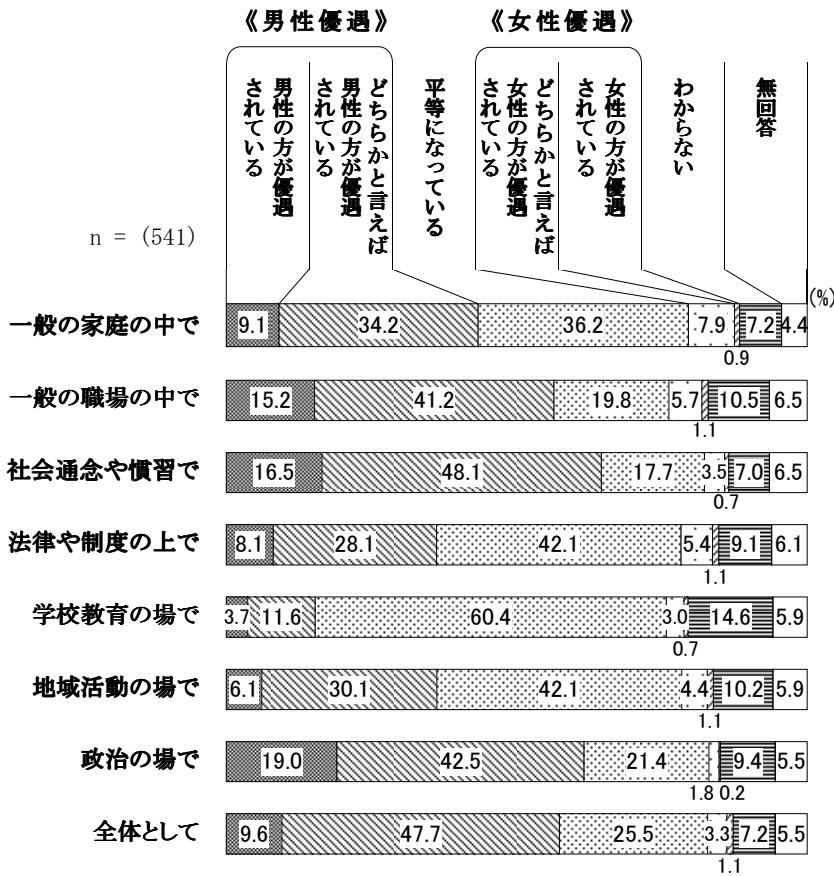
◆市水道水の印象



「おいしい」が 56.4%、「どちらかといえばおいしい」が 34.0%で、これをあわせた《おいしい》は 90.4%となっています。

13 男女共同参画

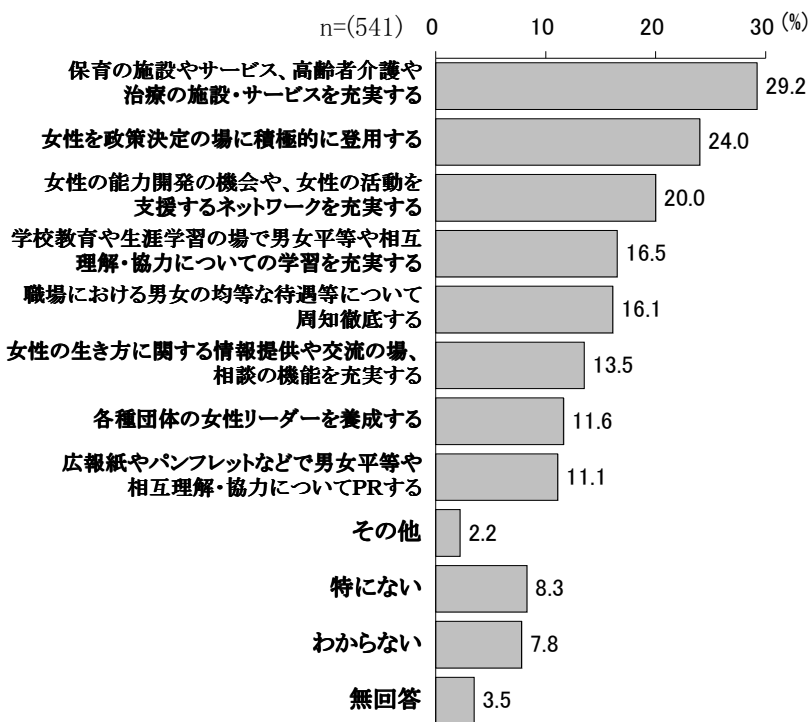
◆各分野における男女平等感



「平等になっている」は、“学校教育の場で”が60.4%と多く、“法律や制度の上で”と“地域活動”が4割台となっています。平等感が最も低いのは、“社会通念や慣習で”で17.7%となっています。

《男性優遇》（「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）は、“社会通念や慣習で”と“政治の場で”で6割台、“全体として”と“一般の職場の中で”でも5割台となっています。一方、《女性優遇》はいずれも1割以下と少なくなっています。

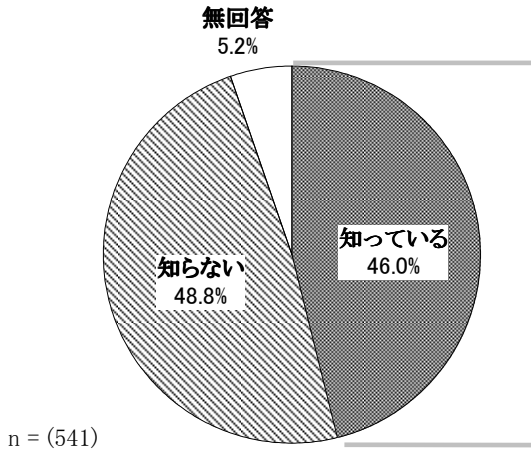
◆男女共同参画社会を形成するために力を入れていくべきこと（複数回答）



男女共同参画社会を形成するために力を入れていくべきことは、「保育施設やサービス、高齢者介護などの施設・サービスを充実する」が29.2%で最も多く、以下、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」(24.0%)、「女性の能力開発の機会や、活動を支援するネットワークを充実する」(20.0%)、などが続いています。

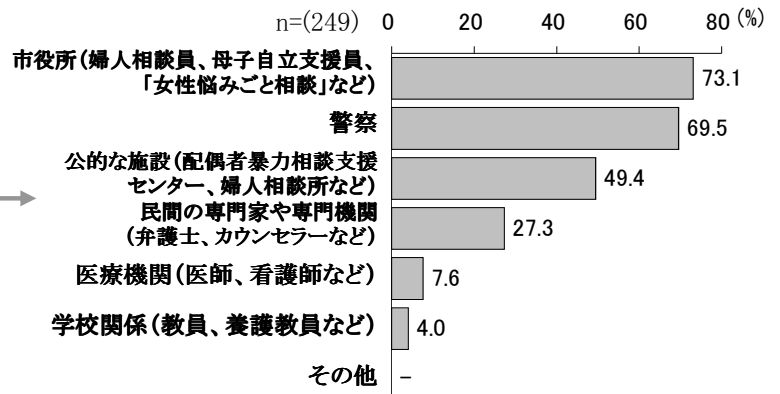
14 男女間における暴力

◆配偶者からの暴力について 相談可能窓口の周知度



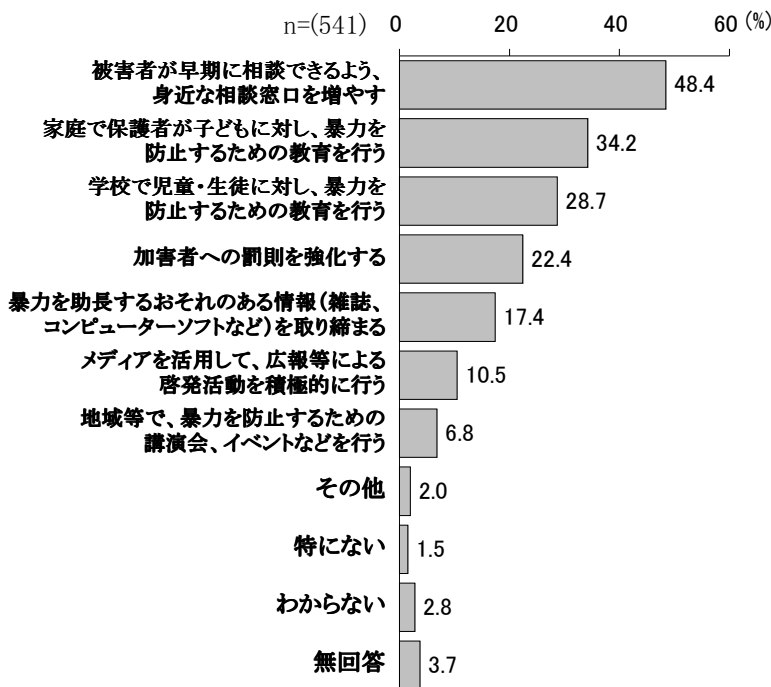
「知っている」が 46.0%、「知らない」が 48.8%となっています。

◆知っている相談窓口の種類 （「知っている」人のみ）



「市役所（婦人相談員、母子自立支援員、「女性悩みごと相談」など）」が 73.1%で最も多く、以下、「警察」（69.5%）、「公的な施設（配偶者暴力相談支援センター、婦人相談所など）」（49.4%）と続いています。

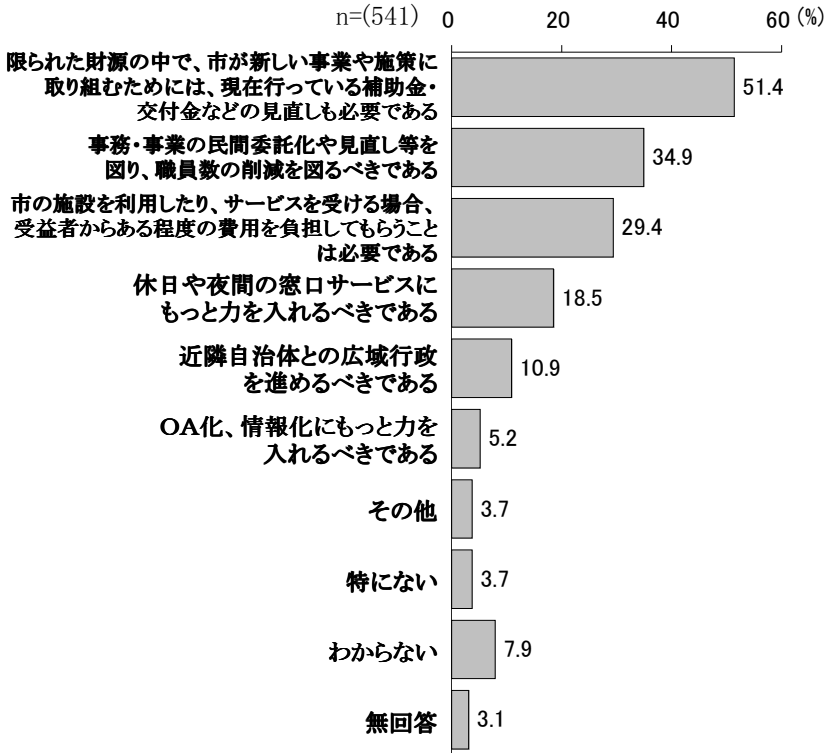
◆男女間の暴力を防止するために必要なこと（複数回答）



「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が 48.4%で最も多く、以下、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」（34.2%）、「学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を行う」（28.7%）、「加害者への罰則を強化する」（22.4%）が続いています。

15 行政改革

◆今後の行政改革の進め方に対する考え（複数回答）



「限られた財源の中で、市が新しい事業や施策に取り組むためには、現在行っている補助金・交付金などの見直しも必要である」が51.4%で最も多く、以下、「事務・事業の民間委託化や見直し等を図り、職員数の削減を図るべきである」（34.9%）、「市の施設を利用したり、サービスを受ける場合、受益者からある程度の費用を負担してもらうことは必要である」（29.4%）と続いています。

平成22年度 羽村市市政世論調査（概要版）

平成22年 8 月

発行：羽村市企画部広報広聴課

〒205-8601 東京都羽村市緑ヶ丘5丁目2番地1

電話：042-555-1111（代表）

<http://www.city.hamura.tokyo.jp/>

実施：株式会社サーベイリサーチセンター

〒116-8581 東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号

電話 03-3802-6711（代表）

<http://www.surece.co.jp/>

この冊子は再生紙を使用しています。

